

事務事業名	浸水対策事業					事務事業No.	614 - 24	
1. 基本情報								
担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名		
都市建設部	土木建設課	建設係	係長	榎坂 龍二	課長	佐藤 和則		
施策体系	総合計画	政 策	6	都市基盤・生活基盤				
		施 策	1	災害・減災対策の充実				
		基本事業	4	防災・減災対策の推進				
	その他の計画	個別計画	飯塚市防災（浸水）対策基本計画					
根拠法令・条例・要綱等	-							
事業開始年度	平成23年度	事業終了年度	継続		事務事業類型	施設整備事業		
実施手法	一部委託	補助金等の支給	なし		実施計画期間	平成23年度～		
2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）								
概要	集中豪雨時に頻繁に浸水被害が発生する地域に対し、飯塚市防災（浸水）対策基本計画に基づき国、県と協議を行いながら事業を実施し、浸水被害の解消および軽減を図る。							
対象	働きかける相手・もの	集中豪雨時に頻繁に浸水被害が発生する地域						
手段	方法・働きかけ（活動指標）	河川や水路の改修、調整池や排水ポンプ場の新設等の事業を実施する						
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	浸水被害の解消及び軽減を図る						
3. 活動指標（決算成果説明書と連動）								
指標名	単位	指標の説明（算式等）		前年度実績	本年度実績	次年度見込		
実施事業数	箇所	浸水対策事業に伴う業務委託、工事及び技術者派遣事業		8	7	5		
4. 成果指標（決算成果説明書と連動）								
指標	実施事業数	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込	
		箇所	7	目標値	7	8	5	
説明	浸水対策事業に伴う業務委託、工事及び技術者派遣事業	方向性	達成目標年度	実 績	8	7		
		維持	-					
指標		単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込	
				目標値				
説明		方向性	達成目標年度	実 績				
指標		単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込	
				目標値				
説明		方向性	達成目標年度	実 績				
指標		単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込	
				目標値				
説明		方向性	達成目標年度	実 績				
5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）								
経費区分	一般会計	政策的経費			特別会計	-		
予算科目・事業	会計 1	一般会計		款 8	土木費	項 5	下水道費	
	大 3	浸水対策事業費		中 -	-	目 1	下水道費	
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	(R2以降)	前年度実績(千円)		本年度実績(千円)		増減理由(10%以上の場合)		
	正職員	1.60	人	12,714	1.95	人	15,881	
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0	
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0	
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0	
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0	
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0	
	会計年度 1級フル	0.15	人	440	0.00	人	0	
	1級パート	0.10	人	210	0.10	人	263	
2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		
人件費計(A)		13,364		16,144		-		
事業費	直接事業費(B)	500,177		163,530		581,996		
	総事業費(A+B)	513,541		179,674		597,877		
直接事業費のうち の主な歳出内訳	委託料	21,054		34,500		12,664		
	工事請負費	273,558		81,976		522,100		
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)	0		0		0		
	国・県支出金	0		0		0		
	市債	290,500		126,900		0		
	一般財源	223,041		52,774		597,877		
	その他()							

6. 事務事業の事後評価★					
評価視点		評価	評価の理由、または認識している課題を記載		
妥当性 評価		高い	飯塚市民が安心して暮らせる安全の町づくりのため浸水対策事業は行政の責務であり、浸水被害が多く発生している地域を対象とする事業であるが、公共性が高く必要性の高い事業である。		
効率性 評価		高い	飯塚市防災(浸水)対策基本計画に基づき事業を実施しているが、製品等可能な限り省力化に努めコスト削減を検討し実施している。事業の財源に各種補助事業や起債等を活用し実施している。		
有効性 評価		高い	浸水対策事業を実施した地区においては事業効果が表れ浸水被害の軽減が図られている。各所に浸水被害地区が点在していることや、近年頻発する集中豪雨が発生していることから、基本計画に基づき事業を進める必要がある。		
7. 前年度評価時の計画と実績					
前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★			
評価区分	成果の方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに			
	現状維持	実施できる改善策			
	評価対象外	コストの方向性	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期		
		現状維持	的に実施する改善策		
前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度を実施できたこと、などを記入					
-					
8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★					
「成果」	飯塚市防災(浸水)対策基本計画に基づき飯塚市民が安心して暮らせる安全の町づくりのため浸水被害が多く発生している地域を対象とする事業であり、水路改修及び排水ポンプ場新設等の事業を実施。事業が完了した地区においては事業効果が表れ浸水被害の軽減が図られている。				
「課題」	財源として、緊急自然災害防止対策事業債の活用が主となり活用期限である令和7年度までに事業進捗が急がれる。また令和8年度以降の財源確保も必要とされる。				
9. 今後の事業の方向性と改善策					
成果の方向性		「理由」 浸水対策事業の中期事業として次年度以降もポンプ場の整備等の事業計画があり、引き続き浸水地区の被害軽減を目指し計画を進めていく。			
現状維持					
コスト投入の方向性		「理由」 緊急自然災害防止対策債を活用し事業費の削減を検討し進めていく。			
現状維持					
次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★					
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策		-			
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策		-			
評価変更理由	成果の方向性		浸水対策事業全体の効果検証を確実に行った上で、不要であれば派遣技術員を廃止すること。ただし、浸水対策事業全体の成果は維持すること。 浸水対策事業全体の効果検証を確実に行った上で、不要であれば派遣技術員を廃止することで、コスト削減に繋がる。		
	廃止				
	コスト投入の方向性				
	縮小				